

3年目を迎えた “北京装蹄技術研修”を終えて

2015年7月28日～30日まで、公益社団法人ジャパン・スタッドブック・インターナショナルが主催する中国・北京への競馬に関する技術交流促進事業の一環として行われた「装蹄技術研修」の講師として北京を訪ねました。併せて行われた「X線技術研修」も含めて、その概要を紹介します。

【X線技術研修】

1. 日時：2015年7月29日(水)10：00～15：30
2. 場所：北京克来務有限公司牧場(姚革氏の牧場)
3. 講師：藤木亮介氏(J R A馬事部獣医課)
4. 参加者：26名(中国牧工商集团公司関係者、北京馬術運動協会関係者等)

5. 研修内容

講演「サラブレッドのX線撮影および読影について」
：10：00～12：00

実技実演/ 実習指導
：13：30～15：30

予定通り10：00に講演を開始し、講演は概ね予定通りに進みましたが、講話が休憩時間間際まで続いたことから、質疑応答の時間が十分に取れず、午後の実習後に質疑を受け付けることになりました。しかしながら実際には、実習の合間に講師と質問者の間で個別に質疑が交わされたことから、改めての質疑応答タイムは割愛されました。

実技・実演については、アナログ方式の一般的なX線撮影を行うことになっていましたが、現地の暗室の遮光が充分でなく、現像が困難であることから、X線カメラメーカー・ミカサの中国総代理店と北京市馬術運動協会西塢馬医院の協力を得て、デジタル方式の画面処理機材を借りて実演と実習を行いました。

当日の北京は晴天で、最高気温は34℃となり、特に午後の実演と実習は炎天下で行われたことから、講師も受講者も全員が汗まみれになって、暑さで相当に消耗してしまいました。この経験を踏まえ、講習終了の挨拶に立った北京市馬術運動協会・陳徹秘書長からは、「6月中旬以降の北京は非常に暑くなるので、屋外での研修は無理であろう。今回の講習会の参加者が予定したほどに集まらなかった最大の理由は、この暑さのせいと思われることから、来年の講習は、6月中旬までには実施できるようにしたい」との反省の言



X線実技研修の記念写真

葉が述べられました。

【装蹄技術研修】

1. 日時：2015年7月30日(木)10：00～15：15
2. 場所：北京克来務有限公司牧場(姚革氏の牧場)
3. 講師：田中弘祐(筆者：J B B A 静内種馬場
総合研修センター)
4. 参加者：11名(中国巻交渉集团公司関係者、北京馬術運動協会関係者等)

5. 研修内容

講演「子馬と繁殖牝馬の肢蹄管理」：10：00～12：00
実技実演/ 実習指導
：13：30～15：15

座学では、まず肢勢の見方から始めました。前望や後望の具体的な肢勢を提示し、適正な肢勢を理解させた上で、X脚の問題点やその矯正例、また近年、日本で使用されている充填材料の種類や使用方法、腱拘縮のClub FootやClub Footが残存した場合の後遺症である不同蹄の競走能力への影響、さらには繁殖牝馬の異常肢勢や裂蹄の矯正法、母馬の蹄の変形や蹄病から起こる子馬への運動不足の影響等について解説しました。

実技・実演に先立ち、実馬を提供してくれる克来務有限公司牧場の担当者から、「中国の当歳馬はまったく馴致していないため、当歳馬では実習中に暴れ出す危険があり、当歳馬を使っての実習は不可能」との説明があり、そのため子馬の肢蹄管理の実演と実習はできませんでした。そこで大人しい温血馬1頭を使い、まず歩様や肢勢の特徴を説明し、さらに削蹄方針を解説。最後にスーパーファーストの使用法を中心に、肢勢異常の矯正技術について実演と実習を行いました。

【総括】

今回の講習会は、夏の暑い時期であったこと、2日続けての講習であったことに加え、事前の周知や案内の方法などにも理由があったようで、出席者がやや少なかったのですが、現地の関係者も含めて、終始熱のこもった講習会になりました。とはいえ、現地の装蹄や護蹄事情はまだまだ問題点が多く、レベル向上に向けて、今後は馬産事情をさらに詳しく調査するとともに現地の獣医師や装蹄師の技術レベルを把握し、より効果的で専門的な研修のあり方を模索する必要があると感じました。

なお、現地の馬関係者の技術向上への期待の高さと、そこに向けて取り組みの熱意には頭が下がったことも事実です。ここに改めて現地でお世話になった方々とジャパン・スタッドブック・インターナショナルの担当者各位に心から感謝いたします。



装蹄実技研修風景